

いわて

住田町

豊かな水と緑の町



町勢
要覧



すみ た 住田町の 新世紀

豊かな森と清流に恵まれ、
自然の恵みを活かしながら
健やかで穏やかな暮らしを育む住田町の人々。
誰からも住みたいと言われる
町を目指して、
新しい試みが進められています。
住田町・住田町の新世紀の姿が
ここに 있습니다。

八日町旧宿場町



元龜年間（1570年頃）から人家が集落をなしており、八幡神社から上流に発展していった。上有住城の城下町で、南部領との境にあり、軍事的にも重要な町だった。徳川時代は、南部と海岸を結ぶ産物の交換地として栄えた。

長桂寺の玉桂



天文23年に一翁舜嶽和尚により開基された寺の近くに高くそびえる桂があることから長桂寺となった。その後、落雷で幹は倒れたが、根から数十本の芽が伸びて速くから玉のように見えたという。桂の樹齢は800年以上。

日門城跡



町内・千葉家の系図によって知られた城。慶長6年秋、世田米城の阿曾沼広長が遠野勢の侵入を受け、火の土で迎え戦ったが、この時日門城が大いに役立った。土塁が残っているほか、本丸跡や二つ丸跡と考えられる平場がある。

世田米蔵並



伊達藩百二十余の宿場町の中でも世田米は盛街道の主要な駅として大変賑わった。世田米は火災の多いことで有名で、火災や出入りが激しい他、外国人から財産を守るために立てたと思われる素晴らしい土蔵群が町の裏手にある。

五葉山と火縄銃鉄砲隊



五葉山は伊達藩直轄の「御用山」として手厚い保護下にあり、ここから産出するヒビキの皮は火縄の原料となった。火縄を生産した松山集落には特別に藩から鉄砲が貸し与えられており、自衛の鉄砲隊が組織されていた。

鏡岩



古くから景勝地として、また信仰の対象として親しまれている。名前は、月夜に松の影がまるで鏡に映るがごとく岩に映し出され、特に十五夜は見事な情景となることに由来する。鏡岩から湧き出る水は目の病に効用があるという。

栗木鉄山跡（県指定史跡）



明治から大正にかけて操業された製鉄所跡。洋式高炉を設置し、民営の製鉄所では生産量が全国3位になった時期もある。明治・大正期の原料を産出しながら製錬する山地型小高炉製鉄所跡としては日本で唯一現存するものである。

名勝 環川



種山ヶ原から流れる川と木地山小牧倉から集めて流れる川が落ちて合流し、激しい流れとなる。深い谷底をえぐり、しぶきを上げて岩に突き当たる深流美は匠巻、宝暦年間に書かれた「気仙風土草」にも出てくる昔からの名勝。

住田町 MAP

見たい聞きたい歩きたい 訪ねてみたい住田町

住田町には、多くの名所旧跡や景勝地が点在しています。気の向くまま、時間の許す限り、ゆっくりと歩いて見て回ることをお勧めします。

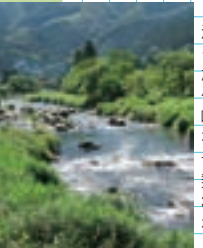


四十八滝



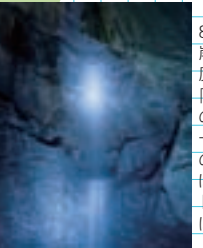
大小の滝が連なって気仙川に注ぐ。中でも「竜灯の滝」は、高さ25メートルあり、気仙地方では最大。四十八滝神社・大明神・十二神が祀られてあり、山岳信仰盛んなところは大勢の信者が、寒中も滝に打たれながら修行を続けたという。

気仙川



上有住の高清水山に源を発し、広田湾に注ぐ延長47キロの河川。かつては「五葉川」「有住川」などいろいろに呼ばれた。岩手の清流を代表する川で、アユ、ヤマメ、イワナなど、魚類の宝庫として有名。3～10月まで釣りで賑わう。

滝観洞・白蓮洞



入口から奥まで約880メートル、周囲の岩壁が大理石に似た石灰石が続き、洞内は「大理石の宮殿」といわれた。一番奥には「天の岩戸の滝」と呼ばれる滝つぼがあり、落差29メートルと洞内にある滝では日本一。

道の駅 種山ヶ原「ぼらん」



県南部と沿岸部を結ぶ国道397号の中継地点に位置する道の駅。町内産の木材を使い建てられた施設には、地元食材やお土産が並び、レストランも備えている。

遊林ランド種山



360度種山ヶ原を眺望できる展望室と、全面檜を使った入浴施設を備える。四季の風景を眺めながらの食事や、大広間でゆっくりとした時間を過ごすことができる。

イーハトーブの風景地 種山ヶ原(国指定名勝)



奥州市の一部を含む巨大な高原。宮沢賢治がこよなく愛し、たびたび訪れた。仙台藩時代から放牧地として利用され、現在も500haが草地造成されている。物見山標高871メートルには、無人降雪量観測所が設置されている。

住田町民俗資料館



古くから伝わる生活文化の資料が展示公開されている。地域の伝統文化を最もよく知ることのできる資料館。





7月下旬の土曜日

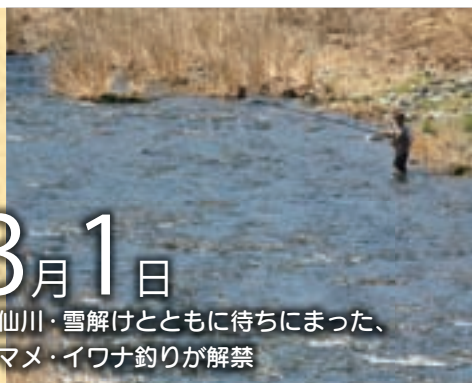
住田町夏まつり

カタクリ



3月1日

気仙川・雪解けとともに待ちにまった、ヤマメ・イワナ釣りが解禁



アキアカネ



いのちの輝きに満ちた 住田の四季

岩手県にあって比較的温暖な気候の住田町の冬は短く、春の陽気に誘われて、緑も清流も人々も活力あふれる季節を迎えます。いのちの輝きに満ちた住田町に、たくさんの老若男女が憩いを求めて訪れる季節が始まります。

4月29日

住田町と大船渡市、釜石市との境界にそびえる三陸沿岸の最高峰・五葉山(1,351m)

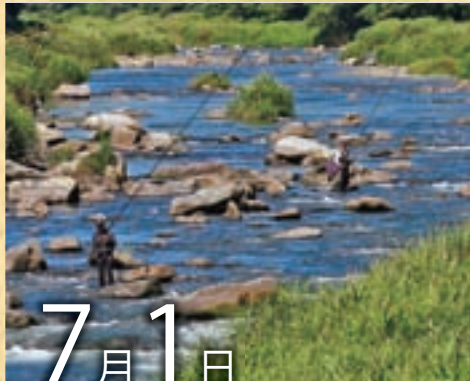


10月上旬

滝観洞まつり



秋のブナ



7月1日

気仙川アユ解禁



エゾアジサイ

6月 第一日曜日

宮沢賢治の作品の舞台 種山高原開き



11月上旬

住田町文化・産業まつり



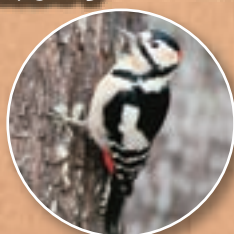
夏のブナ

アツモリソウ

初夏、紫紅色の美しい花をつけ、山里を飾る「アツモリソウ」人と自然の調和を図る温かい町民性を象徴しています。「アツモリソウ」は、町の花に制定されています。



アカゲラ



住田い町の 新世紀

プロローグ

prologue

豊かな森と清流に恵まれ、自然の恵みを活かしながら
健やかで穏やかな暮らしを育む住田町の人々。
誰からも住みたいと言われる町づくりを目指して、
新しい試みが進められています。
住田い町・住田町の新世紀の姿がここにあります。



住田町立有住小学校

Contents

目次

32	「住田い町―安心してずっと暮らせる 地域を目指して―」	町長あいさつ
31	行政・議会	
30	産業	
29	教育・文化	
28	健康・福祉	
27	商業	
26	生活・環境	
24	施策の概要・移住促進プログラム	
20	特集 里山のまちづくり	
18	史跡・旧跡	
16	歴史・文化	
14	特集 すみたの産業	
12	子育て支援	
10	特集 地域情報の基盤整備	
8	農業	
6	環境	
4	林業	
2	特集 森林環境学習	

森林環境学習

〜森と遊ぼう 森とともに生きよう〜

豊かな森と清流を活かし、
森林と人間との
共生を学ぶ森林環境学習が
活発に行われています。



各世代に応じた 森林環境学習を進めています

日本は、世界の中でも森林率が高い国ですが、その日本の中でも住田町は森林率が高い町ということができます。先人たちはこの森林を守り育て、与えられるいろいろな恵みを生かして暮らしてきました。ところが、近年、日々

の暮らしの中で森や川へ足を運ぶ機会はめっきり減り、身近なものだった森林や林業は遠い存在になりつつあります。先人が守り育ててきた森林や森と暮らすための文化は、ライフスタイルの変化に伴い次世代に引き継がれていないのが現状です。

そこで住田町が「森林・林業日本一の町づくり」の一環として、子どもから大人まで、自然と遊び、自然から学べるために進めているのが「森林環境学習」です。



保育園児を対象とした「森の保育園」、小学生を対象とした「水生生物調査」、小中高生を対象とした「森林環境学習」、高校生による「ボランティア活動」、一般町民対象の「種山ヶ原散策」など、各年代に応じた森林環境学習を進めています。

保育園児・小学生・中学生は、種山ヶ原森林公園を散策し、自然にふれあいます。中学2年生で間伐を、中学3年生で木材加工施設を見学します。体験を通して住田町は昔から森林を守り育ててきたこと、それは地球環境を守ることにもつながっているということを学びます。また、住田高校では、森の保育園にボランティアスタッフとして参加し、園児との交流を深めています。高校生にとって森の保育園への参加は、保育士や講師との交流をおして将来の職業意識を育む良い機会となっています。

森の案内人は ふるさとマイスター

世代を越えた森林環境学習で大きな役割を果たしているのが、すみた森の案内人です。各世代に合わせたネイチャーゲーム、自然や生物の多様性について学ぶ環境学習など多彩な活動を指導しています。

森の案内人や森林インストラクター



参加者の声

○自然や環境の大切さに気づいてほしい

すみた森の案内人 佐々木慶逸さん

森の案内人をはじめて5年になります。住田町が掲げる森林・林業日本一の町づくりの一環として森林環境教育が行われていますが、私たちはボランティアとして参加しています。私たち森の案内人は、もともと森や山の好きな人々の集まりで、なによりもふるさと住田が大好きです。子どもたちが生き生きとしている姿を見ていると自分たちも楽しくなりますね。子どもたちに早い時期から自然や環境の大切さに気づいてほしいと願っているのですが、私たちはそのきっかけづくりをしているのだと思っています。

○ふるさとの恵みの大切さを伝えています

すみた森の案内人 紺野好子さん

種山ヶ原の森は、無理せず自然とふれあえるところが魅力ですね。森の案内人は、地域の案内人でもあります。地域の食文化や伝統文化を伝える取り組みも行っています。私たちは、ふるさとの恵みを受けて生きているのです。それは、子どもでも大人でも変わりありません。小さなこと、身近なことから、ふるさとの恵みの大切さを伝えながら、やがては地域の元気づくりになればと考えています。



○森林と環境への関心を深める良い機会

有住保育園園長 松田栄吉さん

森の保育園を毎年実施し、森の案内人のみなさんご協力をいただいています。森の保育園では、大自然の中ならではの生き生きとした園児の姿が見られます。森林環境学習は、森林と環境への関心を深める良い機会となっています。高校生のジュニアリーダーにとっては、将来の職業選択の可能性を含めて幼児との接し方や関わり方を学ぶ良い機会となっているようです。



は、自然観察や環境学習を指導しているだけでなく、住田町の森林と林業のかかわりや森とともに生きる人々の誇りある伝統文化を伝えていきます。森の案内人は、住田町の自然や文化を伝えるふるさとの達人（マイスター）なのです。



森林・林業日本一の

まちづくり

私たちの町には
森林林業日本一の町推進係があり、
町ぐるみの挑戦をサポートしています。

21世紀は環境の世紀です。

地球温暖化の防止に向けた二酸化炭素の排出抑制への森林の役割が重要です。
今こそ、住田町の特色であり資源でもある豊かな森林が活かされるべきです。

先人が育んだ森林を現代に活かすために、
森林・林業日本一の町づくりが進められています。

新たな「住田型森林業システム」で 市場にアピール

面積の90・5%が森林という住田町は、戦後、拡大造林された地域であり、今日に至るまで良質の「気仙杉」の生産地として知られてきました。同時に、匠の誉れ高い気仙大工の技を伝える町としても有名です。

この財産を活かし、町では「気仙杉」の銘柄化に向けた事業を積極的に推進しています。生産加工を担うのは、平成5年に地域の建設業者と工務店によって設立された「けせんプレカット事業協同

組合」です。地元の木材を加工してから出荷することで、流通コストを大幅に削減するだけでなく、加工施設整備で雇用の幅を広げ、より大きな経済効果を発揮しています。また、平成10年に大槌・気仙川流域6市町の森林組合などにより設立された三陸木材高次加工協同組合では、強度や精度の高い集成材を製造するとともに、ニーズに応える技術力を持っています。

このようなシステムは全国的にも高い評価を得ており、住田町は流域林業の先進事例としてモデル地域にも指定されています。



林業が低迷する現状から、私たちの森林に新たな価値を創ることも大切です。そこで、「森林認証を通じた豊かな森づくり」、「木質バイオマスによる森林エネルギーの循環」、「交流の結び目となる『森林（もり）の科学館』構想」を3つの柱として、森林・林業の新たな展開を目指しています。この中で核となる森林・林業経営は、新たな「住田型森林（もり）業システム」と呼ぶことができます。

環境に配慮し、社会的、経済的にも持続可能な森林管理を行いFSC森林認証を取得

森林は資源であると同時に、水や空気を浄化し、洪水調整などの機能を持つ貴



●住田町の森林は「FSC森林認証」に認定されています。
FSC [Forest Stewardship Council : 森林管理協議会] 森林認証は、世界的な森林減少・劣化の問題と、グリーンコンシューマリズム（消費者の立場から環境に付加を与えないよう配慮する活動や運動）の高まりを背景として生まれた、「適正な森林管理」を認証する制度です。認証された製品が市場に増え、購入が進むことによって、適正に管理される森林が守られ、森林の破壊や劣化を招くことなく、木材消費が進むというシステムです。

重なる財産でもあります。この宝を後世に守り伝えるため、平成16年にFSC森林認証を取得。以降、住田町の森林認証林では、環境だけでなく地域社会や地域経済など全ての面で責任ある管理が行われています。認証林から生産された材は町内の認証取得工場を経て、消費者に届けられます。

人間と森林の共生の道を学ぶ「森林（もり）の科学館」

住田町では森林に対する総合的な理解を促すために、平成13年3月に「種山ヶ原・森林（もり）の科学館」基本計画を策定しました。

この計画では、屋内展示施設である「科学館」と野外に展開される「科学の森」、

そして「科学の森」を補う「サテライト」の三つの施設のほか、種山ヶ原と深い関わりを持つ宮沢賢治の作品を展示する「賢治の森」を開設し、森林や林業の知識獲得にとどまることがなく、人間と森林の共生の道を学ぶ取組を目指しています。周辺には道の駅・種山ヶ原「ぼらん」や「遊林ランド種山」など観光施設もそろい、新たなスポットとして期待されています。



森林・林業日本一のまちづくり

基本的な目標

- ◎環境と調和しながら循環する森林・林業の実現
＝住田型森林（もり）業システムの構築
- ◎「住田町」自身を、森林・林業のブランドとして発信
- ◎森林・林業日本一のまちづくりに対する町民の理解と協働

施策の取組方向

川上から川下までの林業振興～新たな取組みへの土台

豊富な森林資源 → 森林整備 素材生産 → 木材加工 木材供給 → 住宅建設 木材利用

- ◎新たな担い手
- ◎川上の強化

新たな展開の3本柱

- 森林認証を通じた豊かな森づくり
- 木質バイオマスによる森林エネルギーの循環
- 交流の結び目となる「森林（もり）の科学館構想」

期待されること

- ◎経済の活性化
- ◎雇用の創出
- ◎住田町の特徴の明確化
- ◎町民の自信・誇りの醸成

町民ができること

- ◎森林を守り、育てる
- ◎イベントに参加する
- ◎木材を有効に利用する

■問い合わせ
〒029-2396 岩手県気仙郡住田町世田米字川向96番地 1
住田町役場 産業振興課 森林林業日本一の町推進係・林政係
電話：0192-46-3861(直通) FAX：0192-46-3868
E-mail sangyou@town.sumita.iwate.jp

●これまでの主な取り組み

- ・3セク産直住宅の設立(昭和57年)住田住宅産業株式会社
- ・大規模製材工場の設立(昭和62年)気仙木材加工協同組合連合会
- ・プレカット工場の設立(平成5年)けせんプレカット事業協同組合
- ・集成材工場の設立(平成10年)三陸木材高次加工協同組合
- ・1市2町の森林組合の合併(平成12年)気仙地方森林組合
- ・森林整備(間伐施業等森林整備、作業道や搬出道開設の整備、町有林の計画的な森林施業の継続、シカ・カモシカ被害対策の推進)
- ・ラミナ製材工場の設立(平成14年)協同組合さんりくランバー





森林エネルギーのまちの

エコロジー

住田町は平成12年に住田町地域新エネルギービジョンを策定し、木質資源ゼロエミッションをめざして取り組みを始めています。地球の木質資源を活用する循環型林業から先進的な環境ビジョンへと進化しています。

住田町地域 新エネルギービジョン

平成11年7月に住田町は、集中豪雨に見舞われ、土場や林内に放置された残材の一部が流失し、洪水に拍車をかけ大水害が発生し、下流域に大きな被害をもたらしました。

この災害を契機として、山林の荒廃を防ぎ被害を繰り返さないために、適切な森林管理の徹底と木質資源のエネルギー利用を図る取り組みとして、「森林エネルギーのまち」の実現を目指した取り組みが始まりました。平成12年に「住田町

地域新エネルギービジョン」を策定し、環境と共生するまちづくりの一環として住田町木質燃料生産システムの確立に向けた木質ペレット製造プラント導入の方策が示されました。

木質資源ゼロエミッションを めざして

「住田町地域新エネルギービジョン」の策定から始まった「森林エネルギーのまち」づくりは、適切な森林管理と木質バイオマスエネルギーの活用を実現する木質資源ゼロエミッションをめざした取り組みです。平成14年に木質ペレットの

製造試験を行い、翌15年には製造施設を設置し、岩手県内でのペレットの販売を開始しました。平成16年には「環境と経済の好循環のまちモデル事業」の指定を受け、3年間で、町内へのペレットストーブの導入を促進。集材工場には工場残材をエネルギー利用するための「木屑焚きボイラー」を導入し、蒸気を熱源として木材乾燥時の化石燃料使用量を削減するとともに、発電施設を整備し、工場内で使用する電力を補い、発電後の余剰熱は、イチゴハウスの暖房に利用しています。

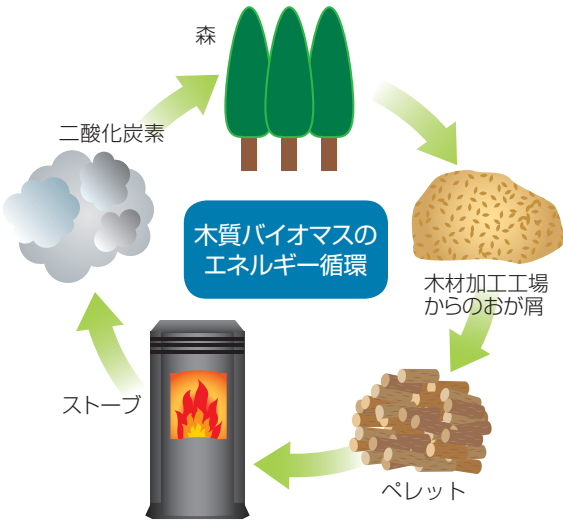


温水循環床暖房で環境にやさしい保育を実施している世田米保育園



住田の取り組みが「新エネ百選」に認定

木質バイオマスエネルギーの取り組みは、先人から受け継いだ貴重な財産を町の宝とし、山林の恵みを100%生かし、山林の価値を高めるとともに、地球温暖化対策、二酸化炭素の排出削減に町を挙げて挑む「小さな町の大きな挑戦」です。木質バイオマスを足がかりに産業振興と循環型林業を目指した取り組みは、地域の特性を活かした新エネルギー利用の好事例として高い評価を受け、平



木質ペレット製造施設と木質ペレット



木質ペレットボイラー
25万kcal/h
(世田米保育園)
2001年度



木質ペレット製造施設
915t/年
(けせんプレカット事業協同組合)
2003年度



木屑焚きボイラー
1t/h
(三陸木材高次加工協同組合)
2000年度



木質バイオマス発電施設
350kW/h
(三陸木材高次加工協同組合)
2006年度

世田米保育園にペレットボイラー導入

平成14年、世田米保育園に児童福祉施設としては全国で初めて木質ペレットボイラーによる床暖房システムを導入、常に温かくおだやかな室内環境を実現しています。世田米保育園は、就学前教育の充実や新しい時代の保育ニーズに対応す

太陽光発電システムの導入で広がる次世代につながる環境教育

今後町の特徴や資源を活かした自然エネルギーの導入をさらに進めていく必要があり、現在、小中学校や公共施設への太陽光発電システムの導入をすすめています。小学校では、太陽光発電システムの導入により、自然エネルギーの活用を学びながら環境を守ることの大切さを知る環境教育が始まっています。

木材加工工場に木質資源ゼロエミッションを実現



8t/h
(三陸木材高次加工協同組合)
2005年度





恵まれた資源を生かす

創意工夫と安全安心の心

農畜産物を活用した特産品開発、加工・生産・流通・情報発信の多機能を備えた産直施設等が、農業を核とした産業クラスターを形成することにより、総合的な農業生産の拡大を図っています。そこにあるのは、生産者の創意工夫と安全安心の心です。

安全安心の農産物をブランド化

森林が町の90.5%を占める住田町では、限られた耕地面積を最大限に生かした高品質で安全安心な農産物供給体制の確立が求められ、様々な取り組みが進んでいます。

住田町の農業は、米、園芸、畜産等を組み合わせた集約的複合経営形態を特色とし、牛、養豚、ブロイラーなどの食肉生産、シイタケや収益性の高いイチゴなどの生産に力を入れてきました。

なかでも柱となる畜産業では、牛・豚・鶏をそろって生産しているという特色と

恵まれた気仙地域の環境を活かして、ブランド化を推進しています。

ハーブを調査した飼料により生産した「みちのく清流味わい鳥」は、肉質もやわらかで肉自体に深い甘みがあり、食肉市場での評価も高く、今後もより一層の市場拡大が期待されています。

住田型アグリビジネスの創出

住田町では、農業生産を高めていくために、農業・農村の持つ多様な資源を有効活用しながら、農商工連携による農業振興を推進し、「住田型アグリビジネス」の創出を図っています。「住田型アグリ

★
ブランドマークが
安全安心を保証しています



住田安心安全野菜クラブ

菊池誠一さん(右) 菊池栄さん

無 農薬で栽培したサラダセットやズッキーニを出荷しています。町の安全安心農産物認証制度で農薬、化学肥料ともに不使用を示す金シールの認証を受け、自信を持って消費者にお届けしています。17人が参加する住田安心安全野菜クラブの農産物を取り扱う直売所「栗の樹」を運営し、大船渡市内のスーパーにも毎日卸しています。



特産品「住田イチゴ」の栽培



住田町野菜工房で収穫された野菜はその日のうちに出荷される

「ビジネス」で求められるのは、農業に対する経営感覚に優れた担い手や進取の気風に富んだ創意ある経営体の育成です。

その先進事例の一つが、住田町の誘致企業で、野菜の水耕栽培を行う(株)住田九州屋の取り組みです。(株)住田九

州屋では、「安全・安心な住田産野菜を全国へ」を理念に掲げ、工房での水耕野菜だけでなく、地域農業生産者でつくる「土作の会」と連携し農地での自社野菜の生産を視野に入れた取り組みが進められ、新しい住田農業のモデルとして期待されています。

安全安心の
ブランドマーク



金



銀



銀



銅

化学合成農薬	不使用	不使用	県慣行の50%	県慣行の50%
化学肥料	不使用	県慣行の50%	不使用	県慣行の50%

住田町が独自に取り組んでいる「安全安心農産物認証制度」は、生産者の農産物について、「農薬・化学肥料不使用栽培」「農薬不使用・化学肥料節減栽培」など栽培過程の応じた格付けを行うもので、出荷時に認証シールを添付しています。



住田菌床しいたけ生産組合組合長
佐々木智嘉さん

★
高い市場評価を維持しながら
住田ブランドを定着させたい

菌 床を作る段階からしいたけ栽培に取り組んでいます。ハウス栽培は、環境の影響が少なく、安定した品質を確保できます。幸い品質については、市場から高い評価をいただいていますので、今後は、さらなる品質向上を図りながら、市場規模に応える生産量を集荷するためにも、生産者の拡大を図りたいと考えています。



(株)住田九州屋
松田哲也さん

★
「住田野菜工房」独自のブランド
「ピュアベジ」に夢を託して

水 耕栽培の最大の長所は、毎日、野菜を見ている中で、品質の違いを感じた時点で修正が可能なことです。工房厳選の新鮮野菜を「ピュアベジ」として日産1400パッケージを出荷しています。また、「住田野菜工房」では、地域との連携をすすめ、工房敷地内に農産物直売所を開設しているほか、地元野菜のブランド化を支援しています。

地域情報の基盤整備

いつでもどこでも誰とでも
情報の交換ができる
情報格差のない
地域社会が
ブロードバンドで
実現しています。



撮影協力：紺野さんご家族、
左より紺野キミ子さん、憧和さん、颯志くん、幹夫さん



放映されている番組



収録した映像の編集作業



「夢先生」の授業を取材中！

町内全域に光ファイバー ケーブルを敷設

住田町は全域がテレビ難視聴地域で、町民の98%が共同受信施設組合に加入していましたが、地上デジタル放送の移行に向けて大規模な改修が必要な施設が多くあり、対応が困難な状況でした。また、携帯電話のエリア拡大が求められながら、採算性の問題から進まず、防災無線も一部で聴こえにくいなど複数の情報格差問題を抱えていました。

これらの問題を一举に解決するため、平成18年度より地域情報基盤整備事業に取り組みました。この取り組み

は、町内全域に光ケーブル約200キロメートルを敷設し、情報格差を総合的に解消しようというもので、各地区の共同受信施設組合ごとの説明会や住民アンケート調査を経て、町民の要望を反映させた情報サービスの実現が図られました。



加入世帯に設置された防災告知端末

全世帯に情報環境が整ったことで、情報化の問題を解消!!



情報通信基盤の整備によ

って、インターネット、地上デジタル放送対応、携帯電話エリアの拡大が実現。また、町内の学校及び公民館、役場等の公共施設間を光ファイバー網で接続する地域公共ネットワークを整備、公共サービスの充実化が図られました。さらに、テレビで地域情報番組を視聴したいという町民の要望に応えるために、住田テレビを開局しました。

住田テレビを開設

地域情報番組が好評です

平成20年4月に開局した住田テレビの自主放送は、取材・撮影から編集・制作まで住田テレビの3人のスタッフが、遠野テレビの施設を利用して技術協力を受けながら番組を放送しています。

地域情報番組「すみたホットライン」

制作スタッフの声

○多くの町民をテレビに出したい

住田テレビ・チーフディレクター 駒林 拓さん

番組編成で日頃考えているのは、一人でも多くの町民をテレビに出したいということです。多くの町内の方に住田テレビに出ていただいて、町民がつくる町民のためのコミュニティテレビとして発展することを願っています。ボランティアの町民キャスターや町民のみなさんからの投稿映像は、みんなで楽しむ番組づくりに貢献しています。今後は、町外へ町をアピールできる番組づくりを目指したいと思います。



視聴者の声

○地域の情報がわかりやすくいいですね

紺野 幹夫さん

住田テレビの番組で楽しみにしているのが、地域の行事紹介です。特に、子どもたちの運動会など学校の行事の様子を観るのが楽しみです。また、町内の他の地域の情報を自宅で観ることができるので、大いに役立っています。居ながらにして町を知ることのできる住田テレビは、まだまだ可能性が広がっていると思います。例えば、企業の紹介や職業紹介、名所旧跡案内などがあるといいですね。



は、新鮮で親しみやすい「町の話題」を提供し、町民から好評を得ています。このほか、「議会放送(録画)」、「静止画告知放送」、「イベントなどの様子を伝える「特別番組」、行政の取り組みや企業紹介、地域の情報を紹介する「企画番組」など身近な話題を中心に、ボランティアスタッフと協力して親しまれる番組づくりを行っています。

次世代を担う子どもたちを 守り育てるために地域の力を結集



すみたコミュニティスクール

人口の減少と少子高齢化の問題は、地域社会の維持や行政の運営に大きな影響を与えており、住田町においてもその対策が強く望まれています。そのなかで少子化対策は重要施策と位置づけ、住田町では、次世代を担う子どもたちを守り育てるために、保育環境等の拡充を促進しています。

● 地域が見守り育てる子育て

住田町は、住田町総合計画（平成19年度～平成28年度）の基本構想において、未来の子どもたちのために、「産み」「育て」「守る」を基本に「安心してずっと暮らすことのできる地域」をめざし、心地よく、安心して暮らせる地域社会の実現を掲げています。

妊娠と出産の時期や産後の育児期はライフスタイルの変化を要求される時期にあり、身体的にも精神的にも不安定な時期であることから、父母が協力して子育てできる環境を整え、母子と家族の健康や社会的・精神的側面からも支

え、守ることが大切です。

このことから、国では、思春期における生命の尊さや自分たちが将来子育ての当事者になることの自覚を促すこと、安全で安心して出産できる環境の実現を目指して「すこやか親子21」を策定しました。住田町においても「すみたすこやか母子21」を策定。安心して元気な赤ちゃんを産み、ゆとりを持って健やかに子供を育てることができるよう母子保健施策を推進しています。施策の重要な視点となっているのは、子育てを見守る地域の温かい姿勢です。母子を孤立させることなく、地域が子育てを見守ることを大切にしています。



住田地域診療センター
一ノ瀬高志医師

信頼され親しまれる 地域医療センターを 目指して

住田地域診療センターでは、「地域の医療と住民の健康を守り、信頼され親しまれる地域医療センターをめざす」ことを理念として掲げていますが、特にこれからは、訪問診療に力を入れ、ガンや認知症の在宅医療に取り組んでいこうとしています。子育て支援としては、子どもワクチン接種促進のために町と協働で予防医学を進めています。



たまごまつり・ひよこまつり

子どもたちが伸びやかに育つために 親子に学びと交流の場を提供

中央公民館（教育委員会）が主催する乳幼児学級・パーム・パームでは、0歳から5歳児までの父母や家族を対象に、温かい家庭環境のあり方や子育てのあり方を学びながら交流を深めています。親子での交流はもちろんのこと、親同士、



世田米
紺野真智子さん

子育てしやすい 町だと感じています

子どもを広い空間で伸び伸びと遊ばせるため、下有住児童館での子育てサークルや保健福祉センターの開放日を活用しています。子育てサークルは週1回。時間の拘束がなく、自由に遊んでお昼を食ったりします。そういう場で情報交換をしたり、子どもも大人もリフレッシュできていいですね。

子ども同士の交流の場として好評です。また、家庭教育に関する学習の機会として開催される「たまごまつり・ひよこまつり」は、乳幼児とその保護者だけでなく、一般住民にも温かい家庭づくりを学ぶ機会を提供しています。

信頼の医療体制が 子育てを支援します

住田町には、県立大船渡病院附属住田地域診療センターを中核施設として、一般診療所3ヶ所（出張診療所1ヶ所含む）、歯科診療所2ヶ所の医療機関があります。住田地域診療センターでは、地域の要望に応え、通院の負担軽減のため、県立大船渡病院の支援を受けて、小児科医の出張診療を行っています。

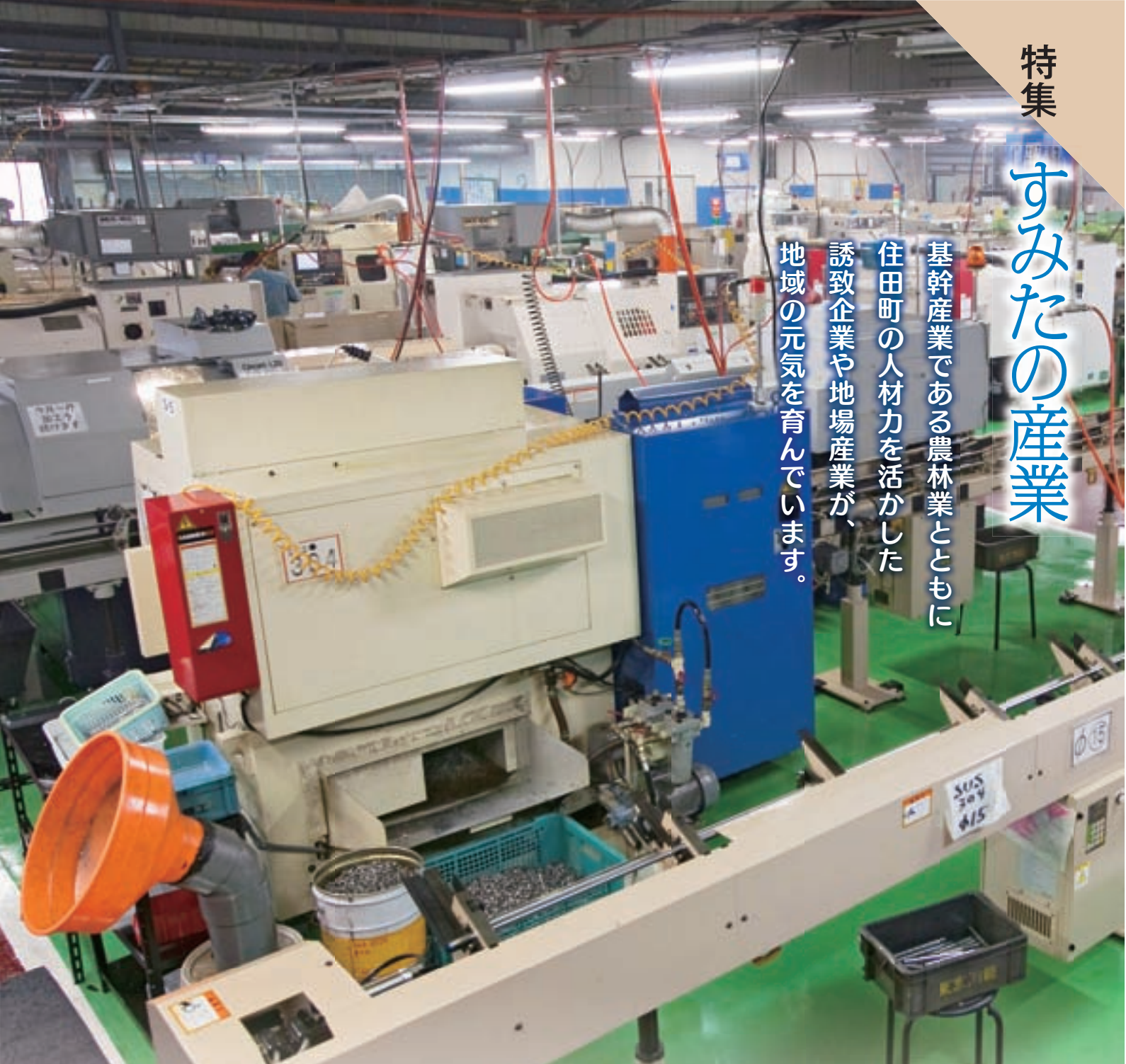


祖父母も参加してにぎわう世田米保育園運動会

特集

すみだの産業

基幹産業である農林業とともに
住田町の人材力を活かした
誘致企業や地場産業が、
地域の元気を育んでいます。



株式会社 神奈川精工・岩手工場



工場長
小倉秀雄さん

**徹底した品質管理精神が
仕事への責任と誇りを育んでいます**

平成7年に岩手県の誘致企業として岩手工場を開設しました。ステンレス難削材の取り扱いが9割を占め、自動車の油圧調整部品や半導体製造装置の部品などをおもに製造しています。住田町の人材は、高い精度が求められる機械部品製造の世界においても、要求された精度を実現できる底力があります。将来は、100%地元出身の人材に任せたいと考えています。それだけの人材力が住田町にはあると言えるでしょう。「不良品を造らない、工場から出さない、お客様に売らない」という徹底した品質管理精神が岩手工場の仕事への責任と誇りを育んでいるのだと確信しています。町の元気を育むためにも、いい意味で町に刺激を与える企業であり続けたいと考えています。



株式会社 いわて清流ファーム



代表取締役
小山富孝さん

美味しい豚を、低価格で届けたい

澄みきった水と空気のある環境に恵まれ、手作りの農園にはイワナが棲んでいます。が、これほどの自然環境はなかなか望んでも得られるものではなく、岩手県有数の大型企業養豚場として誇れるものと自負しています。近年は、「気仙清流豚」という地域ブランド形成への試みが始まっていますが、優れた立地条件を生かした安全安心のブランドとして育てていくことを期待しています。バイオセキュリティ100%の農場では、美味しい豚を低価格で、お客様にお届けするために、定時定量生産によるコスト軽減



への試みも始まっています。それは、食の安定供給の面からも市場から求められていることであり、私たちの果たすべき使命であると考えています。

住田町商工会



会長
横澤吉夫さん

住田町の魅力を事業で発信中

農林業、建設業、製造業、卸売・小売業、サービス業など170事業所が加盟する住田町商工会では、商業部会、工業部会、サービス業部会、青年部、女性部の5つの部会が、様々な事業を展開しています。住田町夏まつり、すみだ産業まつり、青空市などの取り組みは、町内全域から町民が集い賑わう地域総合振興事業として、高い評価をいただいております。近年、多くの若者たちを集めて人気が高まっている「気仙ロックフェスティバル」には、商工会青年部が参加していますが、かつて全国の注目を集めた「す

たーうおっちゃんぐ種山ヶ原」を後継する地域の魅力を生かしたすばらしい取り組みだと思えますので、さらなる発展を期待しています。



ファミリーショップさとう



店主
佐藤忠美さん

笑顔の交流が、

地域の元気につながっています

高齢者世帯も多く、交通の便もよくない地域のために、お店がお客様の自宅に向く移動販売を始め、田んぼのあぜ道、山道を走り続け、今年で27年目になりました。お客様一人ひとりの生活リズムに合わせて移動販売をするため、どうしても営業時間が長くなりますが、それも地域のためだと思えば苦になりません。単なる利益追求型の営業主義では成り立たない商売ですから、なによりも先に地域の便宜を考えます。地域

を知り、日常のおつきあいがあるからできる笑顔の交流が、地域の元気につながっていると思っています。



人々のところを伝える

歴史・文化

いにしえより
受け継がれてきた
歴史や文化の香りを
感じてみる

平安時代、気仙地域は金の産地として注目されていました。住田にもいくつかの金山があり、産出された金は平泉や京の都までも運ばれたといわれています。

平安末期には、野尻金山で働く「掘子」のために平泉・藤原氏が阿弥陀堂を建立。世田米鉢ヶ森の光勝寺開基の端緒とされています。堂宇は荒廃や洪水、火災などの災禍に遭いましたが、鎌倉初期の本尊阿弥陀如来坐像、脇仏観音菩薩坐像、脇仏勢至菩薩坐像の3体（県指定有形文化財）が現存しています。

また、一本木彫りで高さ1メートルの玉泉寺・聖徳太子像や住田町では一番大

きい坐像の松山阿弥陀堂・阿弥陀如来坐像は、いずれも室町期の作で町指定有形文化財となっています。

他に大同年間（806―809年）創建とされる悠久の歴史を誇る五葉山神社、気仙大工による豪壮な山門の満蔵寺など、特徴的な神社仏閣が多く見られます。

民俗芸能は、多くが藩政時代からの伝承とされています。土地神として信仰されている世田米の天照御祖神社の3年に一度の式年大祭には下在大名行列が行われます。これは世田米下在の人が室根神社（関市）に奉納される行列を伝えたのが始まりで、京都本願寺の方式を取り入



本尊阿弥陀如来坐像、脇仏観音菩薩坐像、脇仏勢至菩薩坐像



聖徳太子像



阿弥陀如来坐像



満蔵寺



下在大名行列

れ現在の形になったといわれています。
ほかに、宝暦年間の伝承とされる外館鹿踊、南部神楽の流れを汲む大股神楽、「掘子」によって伝えられた大平梅ノ木念佛剣舞、勇壮で華麗な月山鹿踊など、民間に守り継がれてきた芸能が、舞とともにその背景にある歴史や人々の心を今に伝えています（いずれも町指定無形民俗文化財）。



外館鹿踊



大股神楽



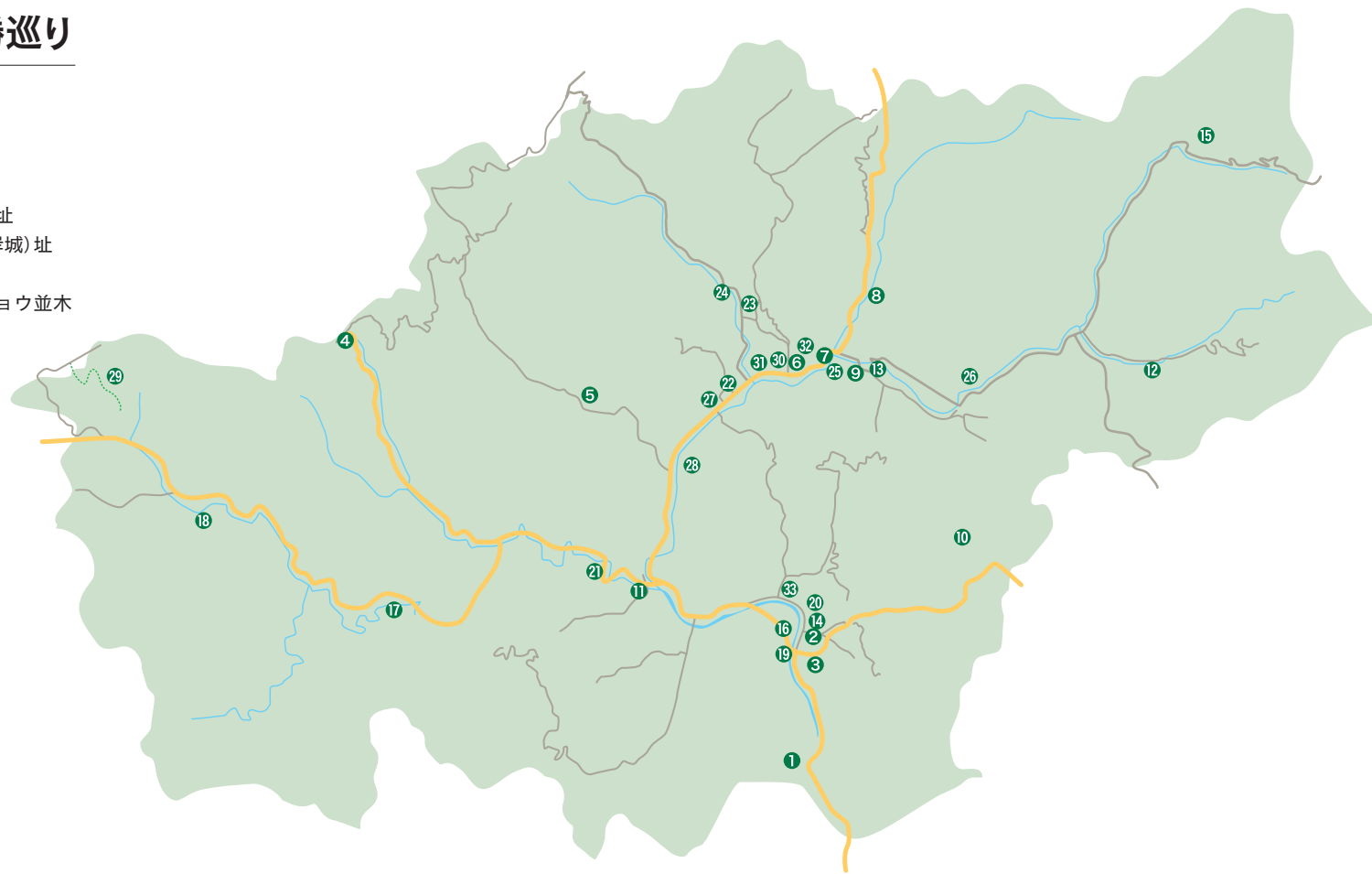
大平梅ノ木念佛剣舞



月山鹿踊

史跡・旧跡

先人たちが
生きてきた証し
その足跡をたどってみる



住田町33カ所史跡名勝巡り

- 1. 四十八滝
- 2. 天照御祖神社
- 3. 世田米城跡
- 4. 藩境と蛭子館金山跡
- 5. 日門城跡
- 6. 法靈権現社
- 7. 蛇王洞窟遺跡
- 8. 樋ノ口城と城攻寺
- 9. 八幡様の御神木
- 10. 湧清水洞窟遺跡
- 11. 荒脛神社
- 12. 火縄銃鉄砲隊
- 13. 八日町旧宿場町
- 14. 世田米蔵並
- 15. 滝観洞
- 16. 気仙川
- 17. 名勝 環川
- 18. 栗木鉄山跡
- 19. 向堂観音
- 20. 愛宕さま
- 21. 石祐神社
- 22. 外館城と萬福寺
- 23. 新切御番所跡
- 24. 新切トビヤ
- 25. 九両が池と櫃割長者
- 26. 鏡岩
- 27. 下有住供養前
- 28. 玉桂と長桂寺
- 29. 種山ヶ原
- 30. 熊野山常光寺址
- 31. 平田城(外根岸城)址
- 32. 葉山薬師神社
- 33. 浄福寺とイチヨウ並木

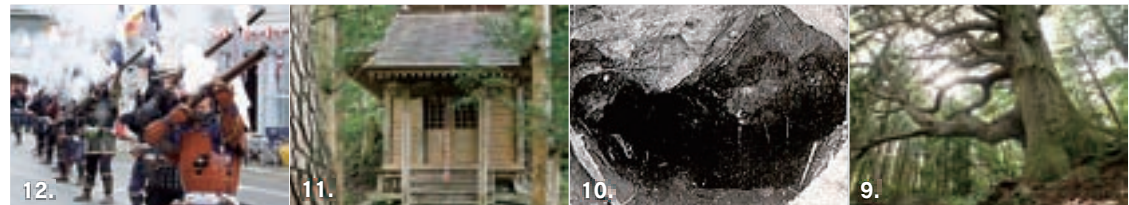
三陸沿岸の最高峰五葉山(1351m)は鉄砲の火縄に使われるヒノキの林を擁し、そのため藩政時代は伊達藩の直轄地となり「御用山」とも呼ばれていました。住田は国内最大の火縄産地に成長、山麓の松山集落は火縄を藩に献上し、藩から鉄砲を賜り独自の鉄砲隊を組織していたといわれています。

以来、1世紀以上もの時を経てその伝統を復活させたのが五葉山火縄銃鉄砲隊伝承会。滝観洞まつりのほか町内イベントで、見物客を圧倒する大迫力の演武を披露しています。

明治期には、民営の栗木鉄山も創業しています。洋式高炉から産出された鉄材は南部鉄器の原料として奥州市水沢区羽田に運ばれるなど、大正11年までの約1世紀の間、高炉の火は燃え続けました。

室町時代末期以降、世田米や八日町は城下町あるいは街道の宿場町として栄えた時代もありました。人の出入りが多く、窃盗や火事などが多発。災難から財産を守るために建てられたのが蔵です。そんな歴史とは裏腹に、気仙川沿いの世田米蔵並は人々の目に美しく映っています。

そのほか縄文早期の蛇王洞窟、湧清水洞窟などの遺跡、城址や館址、大地の営みが造った滝観洞や鏡岩、種山ヶ原などさまざま名勝・旧跡が、時間やことばを越えて、静かに力強く語りかけてくるようです。



里山のまちなぎぐら

地区の特性を活かした
 特色ある地域づくりを進めるため
 町民と行政が協働でつくった**地区別計画**、
 未来をみすえた活動が
 始まっています。



地区別計画は、町民と行政が一体となり、
 地区の特性を活かした特色ある地域づくりを進めるため、
 5つの地区ごとに策定したものです。
 計画の策定にあたっては、地区住民の代表と、
 地区を担当する町職員が協働で作業を進め、
 その内容は、長期展望の視点を含んだ地区の将来像が
 誰にでもわかる言葉で示されています。
 地区住民がそれぞれの目標に向かって特色ある活動に取り組むなか、
 町も積極的な支援策を展開するなどし、
 住田版の地域づくりが着実に進行しています。

いきいきしたまちづくり

せたまいまちづくり委員会「世田米地区計画」

宿場町として栄えた世田米地区

世田米地区は、町の南部に位置し、気仙川に沿った美しい景観や豊かな自然に恵まれている地域です。歴史や文化が感じられる神社や仏閣、美しい景色が見られる場所もたくさんあります。

かつて世田米地区は、盛街道の主要な中継地の宿場町として栄えました。宿場町特有の人の出入りの激しさから火事が多発し、大切な財産を守るために建てられたといわれるのが、気仙川沿いに建ち並ぶ「蔵並」です。かつての栄華の証であると同時に、地域の魅力ある資源として「蔵並」はいま、町内外の注目を集めています。

6つの公民館の独自性を活かして

住田町には、世田米、大股、上有住、下有住、五葉の5地区がありますが、地区内に6つの公民館があるのは世田米地区だけです。町内で最も人口の多い世田米地区では、それぞれの公民館の独自性を活かしながら、地区内の連携を深めることが重要な課題となっていました。課題解決のために、地区住民が独自の地区計画をつくり、ふれあいを大切にしながら、自主的、創造的な取り組みの実践が行われています。

うるおいのある、いきいきした、ふれあいのある町づくり

世田米地区計画には、「うるおいのある町にしゅう」「いきいきした町にしゅう」「ふれあいのある町にしゅう」という3つの大きな基本方針があり、それぞれの方針に沿った事業が進められています。多様な取り組みのなかでも地区のつながりを深めている事業として、川向河川公園整備清掃事業、世田米発見ウォーキング、凧づくり教室が好評です。川向河川公園整備清掃事業は、地区の憩いの場の再

発見と景観形成を推進する取り組みです。世田米発見ウォーキングは、地域資源を活かしたまちづくりを考える取り組みです。子どもたちに人気の凧づくり教室は、地区内の達人の協力を得て、毎年1月に行われています。「いきいきしたまちづくり」を大きな目標に掲げる世田米地区は、「夢」「希望」「意志」を持った計画の具現化に向けて、各種事業の企画・運営・実施のそれぞれの領域における取り組み過程を大切にしたい一体感のある土壌が培われつつあります。



凧づくり教室



世田米発見ウォーキング

まっと住田い上有住
 上有住地区計画推進協議会「上有住地区計画」

2つの川沿いに広がる里山集落

上有住地区は、住田町の北東部に位置する中山間地域にあり、気仙川と坂本川の川沿いを中心に集落が形成されています。平成19年3月には、東北横断自動車道が一部供用開始され、そのインターチェンジが上有住地区に隣接する遠野市上郷町平倉地区に設置されました。このことにより上有住地区はもとより住田町の交通アクセスが格段に向上することとなりました。過疎化と少子高齢化が著しい地区ですが、これまでの産業振興の特性を生か



史跡・景勝地案内板



八日町市日



上有住地区マップツアー



看板設置

しながら、地区の協働により、新たな活力を見出すことが様々な取り組みが進められています。

自分達が本当に満足できる地域づくり

上有住地区では、地区住民一人ひとりが「自分達が本当に満足できる地域づくり」ができるよう、その体制の充実・強化を図っています。地区計画に掲げる基本テーマ「まっと住田い上有住」は、上有住地区が持ち合わせている「歴史・風土・もの」の良さを再発見し、その良さを将来に伝えていくこととする地域づくりの理念を象徴しています。

みんなできればできる
 3つの基本方針を具体化へ

地区計画には、「みんなできればできる」を合言葉として、「みんなで作ろうよ」、「みんなで楽しもうよ」、「みんな育てようよ」という3つの基本方針が設定されています。

「みんなで作ろうよ」という基本方針には、上有住地区民総参加による農産物の生産・販売・流通・運営体制の確立への願いが込められています。赤羽根直売所の運営や八日町市日の開催により、その願いが着実に実現へと向かっています。

「みんなで作ろうよ」という基本方針には、地区のみんなが、地区の魅力や良さを改めて知りながら、伝えながら、楽しみながら活動したいという思いが反映されています。地区のみんなで作った案内板やマップを利用し、史跡・景勝を巡るマップツアーを行い、地区の親睦と相互理解を深めています。

「みんな育てようよ」という基本方針は、すべての取り組みの基本は「人」であるという考えに基づいています。上有住地区には、どんな人と技があるのか、地域にどんな魅力があり、どのように活用することができるのかを考えるために、地区内の「宝探し」に取り組んでいます。

共につくる元気な大股

大股地区振興協議会 「大股地区計画」

大股地区は、本町の西部に位置し、四方を急峻な山に囲まれた山村地域で、種山から東南へ流れる大股川と辰砂山から南へ流れる小股川沿いに、大股地区・中井地区・姥石地区、小股地区の4集落が点在しています。遠野市、奥州市、一関市、陸前高田市と接し、国道107号と国道397号が小股地区で分岐・合流している交通の要衝で、内陸方面からの玄関口となっています。旧大股小学校校舎を大股地区公民館として、地区の情報発信、人材育成など地区の中心施設に位置づけ活用を図っています。

大股地区では、地区計画の基本方針に「地域の発展は結いの心から」を掲げ、2つの視点による3つの活動テーマの実践を通して地区の元気づくりに取り組んでいます。

2つの視点とは、「大股をもっとよくするために『結びと協働』による課題解決のための活動への視点」と「大股をもっと元気にするために『コミュニティビジネス（地域経済活動）』など未来志向の活動への視点」を指しています。活動の基本となる3つのテーマが、「人と情報」、「経済」、「環境」です。かつて木炭の生産で生計を立てていた大股地区では、大股地区公民館敷地内に炭窯を再現し、多様な活動への展開をめざしています。



ひととみどりを美瀬に伝える郷 下有住

下有住地区支援委員会 「下有住地区計画」

下有住地区は、住田町のほぼ中央に位置し、気仙川本流に、火の土川や新切川、小さな沢が数多く流れ込むなど水の恵み豊かな地区です。

地区計画では、大切なこととして、「ひと（人材の育成）」と「みどり（環境保全）」をあげています。「ひと」では「未来を支える人づくり」「地域を学ぶ地元元学」「文化を伝える伝承活動」、「みどり」では「自然を守り育てよう」「農林業を守り育てよう」「清流を守り育てよう」を基本方針としています。

早くから地元元学による地域資源調査に取り組んできた下有住地区では、地元元学で「気づいて」きた資産の有効活用に取り組んでいます。町内外の注目を集めている実例として、気仙川にかかる唯一の一本橋である「松日橋」周辺の整備事業があります。松日橋を気仙川の清流の象徴として守りながら、農産物直売と関連した活用を検討しています。また、「地域農業振興事業」として、先進地の青森県田子町からニンニクの種を購入し、ニンニクの実証栽培を実施しました。ニンニクの栽培を中心に、減農薬、減化学肥料栽培による安全・安心な農産物を生産し、差別化販売に取り組んでいます。



地域の協働・自然との共生による新たな可能性

五葉地域づくり委員会 「五葉地区計画」

五葉地区は、住田町の東部、県立自然公園五葉山の北山麓に位置し、東方を釜石市、南方を大船渡市、北方を遠野市に接しています。種山ヶ原と並ぶ観光地「滝観洞」を擁する地域です。平泉藤原三代の時代から産金が行われ、昭和初期まで採掘が行われた坑道が残っています。

地区計画には、「地域の協働」と「自然との共生」という地域づくりのための2つの基本方針があります。「地域の協働」を実現するために、地区民懇談会（おにぎり談義）を開催し、「結い」の精神の普及啓発活動を行っています。五葉秋祭りは、郷土芸能伝承活動のための重要な舞台となっています。

「自然との共生」に沿った活動として、桜並木の植樹や河川清掃などの景観保全活動が行われています。また、近年新たに整備された五葉地区公民館は、地区の中心施設であり、地域づくりを推進するためのシンボルとなっています。今後は、五葉地区公民館を拠点に、高齢者の生きがいづくり、郷土芸能の伝承、特産品開発、観光PR活動など多彩な事業に取り組み予定です。

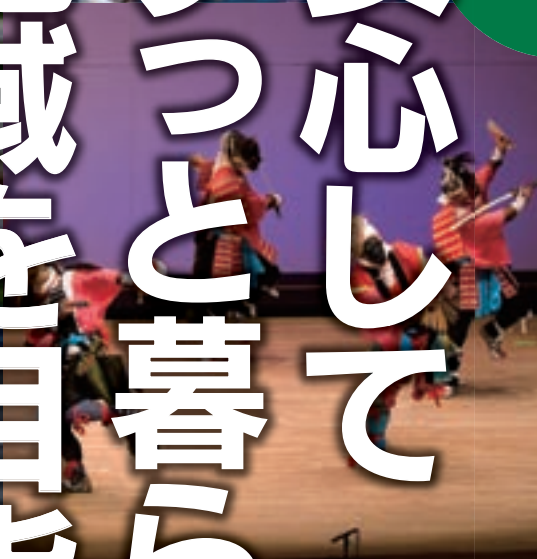




施策の概要

安心して暮らす地域を目指して。

豊かな森と清冽な水に洗われた、澄んだ空気があふれる住田町。郷土への誇り。未来への自信。このまちだから、育める心がある。このまちだから、描ける未来がある。



移住促進プログラム

緑の森と清流が織りなす里山に
心豊かな暮らしを提供します



住田町への移住・定住を考えている方に、町営住宅か、民間の空き家を紹介しています。

町内各地区に団地を形成している町営住宅については空きがあるか、移住希望者が入居条件を満たしているかを確認します。空き家については物件情報を住田町ホームページ上に公開。改修経費の一部を助成する制度も創設しました。

移住・定住に伴い就農を希望する方には各種サポートも実施。現地案内も含む農地の斡旋をはじめ、農業改良指導員や農業コーディネーターの技術指導も受けられます。また、農業経営支援の一環として初期投資への資金援助も行っています。

住環境面では医療、福祉、教育施設が整い、ケーブルテレビの「住田テレビ」開局により光ブロードバンド、防災放送ほか情報に関する各種サービスを提供しています。



問合せ先

住田町役場町づくり推進課
TEL.0192-46-2114(直通)
FAX.0192-46-3515
<http://www.town.sumita.iwate.jp/>



快適な生活環境を目指して



自然景観と調和した町営住宅



国道283号滝観洞インターチェンジ

豊かな自然環境のなかで、快適な暮らしを営めるよう、環境保護と生活環境の整備に取り組んできました。

きれいな河川を守るため、下水道や浄化槽の設置を進めると共に、不法投棄の監視や「町民総参加河川清掃」などを通して住民の河川浄化意識を育成。ゴミの減量化も推進しつつ、総合的に美しく清潔な環境を保つ取り組みを行っています。



河川公園の清掃活動(世田米)

水源に恵まれている住田町では個人や集落などの水道施設も利用されていますが、簡易水道施設整備区域外の自家水共同施設の整備を促進し、安定した飲料水の確保にも努めています。

各種交流の活性化の基礎となるインターネットなどの情報網や道路の整備も促進してきました。道路は周囲の景観との融合も重視し、憩いの場の創設にも配慮しています。

平成22年からは、民営のバス路線に替わってコミュニティバスの運行を開始しました。実証運行期間とした1年間に、住民による意見交換会を行い、最良の運行方法を検討。交通弱者にとって真に便利な交通手段となり、大いに活用されるよう努めます。



コミュニティバスの運行

商業

交流を育む
賑わいのまちづくり



住田い町青空市・軽トラ・ワゴン市



八日町市

人口減少など社会環境の変化で地元消費は減少傾向にあり、人の流れを再び呼び戻し活性化を図っていきます。
個人経営の商店が組織的に活動することにより人的交流、物流の拠点となることを目指し、さらに住民と行政の協働による、商店街を中心とした地域

活性化構想の検討も行っていきます。なかでも、「住田い町青空市・軽トラ・ワゴン市」(世田米)や「八日町市」(上有住)など、農林業などと連携したイベントをそれぞれ春と秋に継続して開催し、賑わいを呼んでいます。
また、町内には特産品や土産品と

して活用できる観光資源や農林産物の資源がありますが、産直なども連携して特産品の開発と商品化に取り組み、商工観光の振興を図っていきます。
林業を基幹産業とする町の特性を活かして、周囲の自然環境と調和する町営住宅を整備。木材加工工場には未利用木質資源を利用した木屑焚きボイラーを設置し、発電施設や園芸ハウスへのエネルギー供給など、自然エネルギーの活用もさらに推進していきます。



プレカット作業

健康
福祉

健やかに安心して暮らせる
環境を目指して



母子保健事業幼児教室

次世代を担う子どもの健やかな成長と子育て世代の支援のため、平成21年からは、出生後から中学卒業までの子どもの医療費を無償化にしています。また、住民ニーズに対応した多様な



高齢者福祉施設 デイサービスセンター「とだて」



すみた荘での敬老会

保育サービスの提供や放課後児童保育の充実を図っています。一方で成人・老人の生活習慣病予防や心の健康も重視し、さまざまな対策、支援体制などを強化しています。



住田地域診療センター

平成21年の住田地域診療センターの無床化に伴う町民の不安や不便を解消するために、近隣の県立病院との連携を強めています。診療センター常勤医師についても、3名体制を確保しています。

高齢者福祉では、平成22年にデイサービスセンター「とだて」とそれに併設するグループホーム「かっこう」を開設。安心できる環境のなかで、楽しみや生きがいを見出し心豊かな時間を過ごせるよう、行き届いたサービスを提供していきます。

教育文化

「学ぶ力」と「生きる力」の育成を目指して



運動公園(カップ競技)



森の保育園



森林環境学習



コミュニティースクール

子どもから大人まですべての住民が
 教養を高め、知性と実行力を身につけ
 られるよう取り組みます。
 「幼児・保育プラン」という就学前
 の教育環境の充実を図り、自ら学び、

考える力をつけた「知・徳・体」の調
 和のとれた児童生徒の育成に努めます。
 また家庭と地域の教育力向上のため、
 家庭教育と教育振興運動の充実にも努
 めています。

また、子どもたちが地元への興味や
 愛情を持てるように、木工団地見学や
 砂金掘り体験など、自然や産業にふれ
 る「森林環境学習」を実施。成人には
 町民講座の開催や団体研修事業や自治
 公民館自主講座の支援などを通して職
 業や地域における課題解決の意識の高
 揚を図り、また地域づくりの中心とな
 り得る実践力の養成を目指します。
 町づくりに寄与する人材育成の観点
 からは、まずは豊かな心や社会の変化
 に柔軟に対応できる能力を養う必要が
 あると思われま。個々人が学習を通
 じて自己研鑽することにより、住みよ
 い地域社会を作ることができるよう、
 学習活動を支援していきます。

産業

町の特性を活かした 新たな産業おこしを



FSC森林認証材の木工商品開発

農業は米、園芸、畜産などを組み合わせ、畜産、施設型園芸の産地確立に取り組んできました。今後は、農商工連携による農業振興を推進し、住田型アグリ



木工団地

ビジネスの確立を目指します。また、担い手育成支援制度の活用や個別経営から法人化への転換、集落営農を推進しながら、後継者対策の強化を図ります。労働力のほか土壌・気候などを考



企業と農業生産者が連携し、全国へ出荷される野菜



安全安心農業認証制度の農産物

慮した適地適作で産地ブランド化を図ると共に、町独自の「安全安心農業認証制度」を設定し、安全な土作りから無農薬、無化学肥料に近い形での栽培まで、農産物生産に力を入れています。林業は「森林・林業日本一の町づくり」を目標とし、木工団地経営の安定を最優先課題として取り組んでいます。FSC森林認証による環境に配慮した持続可能な森林経営を行うことで、地域環境に優しい森からの産出材であることの理解を醸成し、需要拡大を目指します。また、豊かな森づくりや、木質バイオマスによる森林エネルギーの循環、交流の接点となる「森林（もり）の科学館構想」など、さまざまな角度から森林を活用していきます。

行政
議会

町民協働のまちづくりを目指して



住田町議会



副議長
菊池 孝



議長
水野 英哉



副町長
小泉きく子



町長
多田 欣一

「安心してずっと暮らすことのできる地域」を実現するには、民官一体となった施策の推進が必要です。そのために、誰もが行政に参加しやすいよう、わかりやすい町政情報の提供を積極的に行い、住民の理解と関心の高揚を図ります。地区別計画も策定し、自発的にまちづくりを進める団体などを支援。また、民間でできることは民間に任せ、行政の比率を縮小して役場の原点である「小さい役場」を目指します。

町民との連携の実現には、効率的な行政運営や多様な需要に対応できる役場体制の構築が必要であり、また、有意義な予算計画と、受益者負担の適正化や徴収の向上による健全な財政運営も重要課題です。各計画の推進においては進捗状況の把握に努め、推進しつつ進捗状況と併せて以降の事業を検討するなど、柔軟に取り組んでいきます。

町の総合計画の実現には自治体同士の緊密な連携も不可欠です。情報収集を行うって国や県の事業との相乗効果の創出に努め、ゴミ処理、介護保険、救急体制、産業振興など広域行政の推進にも取り組み、町民満足度の高い行政サービスを提供していきます。

町長あいさつ

住田い町ー安心してずっと暮らせる 地域を目指してー

住田町長 多田欣一



私たちのまち住田町は、岩手県の東南部に位置し、昭和30年に上有住村、下有住村、世田米町が合併したまちでございます。新町発足後も、森と水の美しく豊かな自然環境に恵まれ、これまで先人が築き上げてきたこの町の人と自然を基本に、町づくりに努力してまいりました。

今、地方自治体には「人口減少」「少子高齢化社会の到来」「都市と地方の地域間格差の拡大」など直面する課題は多く、また、「地域主権」の確立に向けた動きが本格化し、対応できる社会を築くため、住民力、地域力、行政力を高め「人、地域、産業が元気な町」の実現に向け、まさに地域ごと、自治体ごとの自治能力の真価が問われる時代になっています。

このような中、住田町におきましては、無農薬・無化学肥料栽培による安全安心な農業の推進、森林林業日本一の町を目指し、木材流通システムの充実を図り、FSC森林認証制度や木質バイオマスなどの環境に配慮した林業施策を展開するなど、住田町の進むべき方向性をしっかりと見据えた各種施策を推進してまいります。

「安心してずっと暮らすことのできる地域」という住田町の将来像を目指し、町民と行政が共に知恵を出し合い、共に汗をかきながら、真の豊かさを感じられるような町づくりに取り組んでまいります。この要覧を通じて、住田町の元気ある町づくりへの取り組みを改めて認識していただくことができれば幸いです。

町民憲章

わたくしたちは豊かな緑の山々と
清流気仙川をこよなく愛します。

そして、住田の風土の中で培われて来た
かおり高い伝統と恵まれた自然を生かし、
心をひとつにして、
豊かで住み良い町をつくるため、
ここに住田町民憲章を定めます。

目で見てわかる住田町

SUMITA
TOWN
DATA

住田町は、「安心してずっと暮らせる町」を目指しています。

■住田町総合計画（平成19年度～平成28年度）

〈10年のシナリオ〉

●これからの住田町

住田町を取り巻く社会情勢は、他の市町村同様、少子高齢化、過疎化による人口減少、将来の担い手確保など、市町村の枠を超えた地域振興策が必要となっています。

このため、住田町においては、将来の地域を見据え、次世代へとつなげる未来を担う子どもたちの視点に立ち、恵まれた自然の中で、安心して暮らすことのできる町づくりを目指す必要があります。これまでの成果と、住田町の自然、歴史的社会的諸条件を踏まえ、この地域に安心して暮らせる地域社会を創り上げるための基本方向を明らかにし、自然と生産の調和のとれた町づくりを目指した「住田町総合計画」を策定しています。

●次世代のための10年

計画は、住田町が目指すべき将来像を示した「基本構想」と、それを実現するための施策の方向性をまとめた「基本計画」で構成されています。計画を実現するためのプロジェクトは最も重要な施策です。

基本構想
(目標年次 平成28年度)

前期基本計画
(平成19年度～平成23年度)

後期基本計画
(平成24年度～平成28年度)

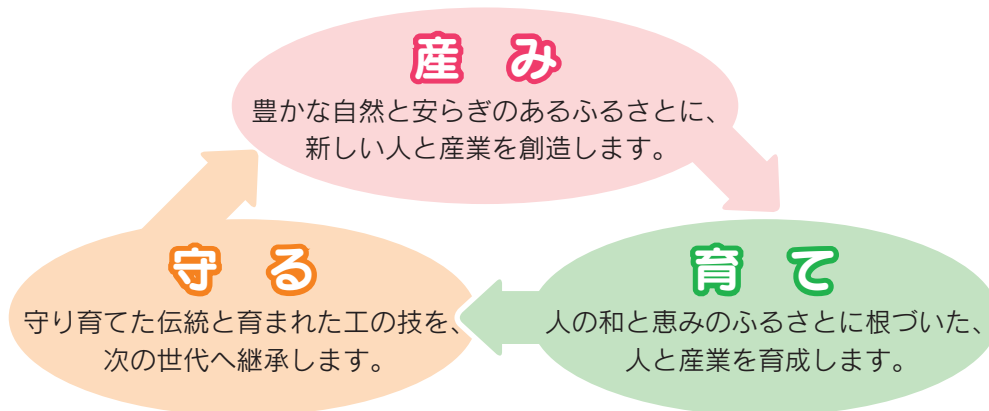
プロジェクト

●3つの柱と4つのプロジェクト

未来を担う子どもたちのために、「産み」「育て」「守る」の3つの施策を循環させながら、心地よく、安心して、ずっと暮らせる町づくりを実現するために、4つのプロジェクト「住田町の物語創造プロジェクト」を実施します。

基本構想

目標とすべき将来像「安心してずっと暮らせる町」



4つのプロジェクトの主な内容

- プロジェクト名** 【起】「交流ステップアップ」プロジェクト
プログラム名 交流人口拡大プログラム
施策 滝観洞観光エリアの拡充、交通の要衝・観光資源の活用、グリーンツーリズムの推進
- プロジェクト名** 【承】「定住システム構築」プロジェクト
プログラム名 住まい確保プログラム・移住促進プログラム・子育て支援プログラム
施策 町営住宅の建設、移住の促進、子育て環境の拡充
- プロジェクト名** 【転】「暮らし豊かさ実感」プロジェクト
プログラム名 森林・林業日本一の町推進プログラム
安全農業推進プログラム・企業振興プログラム
施策 木材流通システムの発展、農産物のブランド化、起業支援の推進
- プロジェクト名** 【結】「こころ豊かさ満喫」プロジェクト
プログラム名 自然共生プログラム・地域づくり推進プログラム
施策 森林の科学館構想の推進、地区別計画の推進

●町章



住田町の「す」の字を鳩と旭に図案化したもので、平和産業の町として旭日昇天の勢いで発展飛躍することを表徴したものです。

●位置



●町の花鳥木

初夏、紫紅色の美しい花をつけ、山里を飾る

アツモリソウ

人と自然の調和を図る温かい町民性を象徴している。



気品にあふれた銅褐色の羽毛で体をつつみ、長い尾をもつ

ヤマドリ

こまやかな習性と飛翔迅速な姿は、かおり高い文化の振興を象徴している。



大空に向かってまっすぐに伸び、用材としても広くその価値を認められている

スギ

緑の町として、さらに発展しようとする町の未来を象徴している。



■人口 6,372人 男3,092人 女3,280人
(平成22年4月末日現在)

世帯数 2,159世帯

産業別就業者数(資料:平成17年国勢調査報告書)

総数 3,335人 第一次産業 …… 834人
第二次産業 …… 1,164人
第三次産業 …… 1,337人

○出生



9.6日に一人

○死亡



4.4日に一人

○転入



2.4日に一人

○転出



1.9日に一人

○1世帯当たりの人口



3.4人

○町民所得(一人当たり)



1,909,534円

○予算(一般会計支出額・一人当たり)



699,271円

○持家率



89.1%

○消防団員



17人に1人



住田町勢要覧

発行 住田町

〒029-2396 岩手県気仙郡住田町世田米字川向96-1

TEL 0192-46-2111(代) FAX 0192-46-3515

URL <http://www.town.sumita.iwate.jp/>

E-mail sumita@town.sumita.iwate.jp

印刷 川口印刷工業株式会社



気仙杉

気仙地方(住田町、大船渡市、陸前高田市)は、地域の面積89,040haのうちおよそ85%を森林が占め、アカマツ、カラマツ、スギなどが豊かにしげる木材の宝庫です。

「スギ」は、50メートル前後まで成長する常緑高木で、北海道を除く全国各地に野生しています。木目が縦にまっすぐで、ヒノキやマツに比べ木質が柔らかいことから、加工にも最適。建材としてはもちろん、家具、樽材など、古くから日本の生活に欠かせない木材として、植林も頻繁に行われてきました。また、ダニを予防する抗菌・殺菌作用・調湿効果に優れ、人の神経にやわらかに作用し、心身を安定させる「フィトンチッド」の効果も、近年注目されています。

なかでも、ここ気仙地方で生産される「気仙杉」は、木肌のツヤの良さと温かな手触りで品質には定評があり、「丈夫で長持ち」な建築材として、全国各地で高い評価を得ています。住田町は、降雪こそあるものの、気候の厳しい東北では温暖な地域。この寒暖のバランスがとれた気候が、急激すぎず、遅すぎず、スギを平均的に成長させてくれるわけです。良質な「気仙杉」は、各地で高い評価を得ていますが、気仙地方は江戸時代からの伝統を持ち「気仙大工」として全国に知られる匠集団のふる里。良材を選び、伝統工法を受け継ぐ丹念な家づくりには定評があります。



FSC森林認証

住田町は「環境」に配慮した適正な森林管理を認証するFSC (Forest Stewardship Council: 森林管理協議会) 森林認証を取得しました。認証された森林の林産物でできた木材製品に付けられるFSCのロゴマークは、「環境保全型」の林業経営の証しであり、消費者の方々がこの製品を選び、市場で循環することによって、破壊や劣化を招かない、適正に管理された森林を守り育てていくことになります。

